



寸法および規格

コート寸法

- コートは長さ40m(小学生の場合は36mが標準)、幅20mの長方形で、2つのゴールエリアと1つのプレーイングエリアで構成される。長い辺をサイドラインと呼び、短い辺のうちゴールポストの間をゴールライン、ゴールの両外側をアウターゴールラインと呼ぶ。
- 一方のチームが有利になるように、コートの特性を変えてはならない。
- コートの周囲には、サイドラインに沿って幅1m以上、ゴールラインの後方に幅2m以上の安全地帯を設けなければならない。

ライン

- コート上のすべてのラインは、そのラインが囲む領域に属する。ゴールポストの間のゴールラインは幅8cmそれ以外の各ラインはすべて幅5cmである。
- 隣接する領域を区画するラインの代わりに、隣接する領域の床の色を変えることもできる。

コート	競技場のゴール以外の部分
センターライン	両サイドラインの midpoint を結んだライン
サイドライン	競技場の縦の40mの区画ライン
アウターゴールライン	競技場の横の20mの区画ライン
ゴールライン	アウターゴールラインのうちゴール内の部分
ゴールエリアライン	ゴールエリアを区画するゴールから6mの位置に引かれたライン
フリースローライン	ゴールエリアの外側に3mの距離に引かれたラインで、フリースローのときに攻撃側が越えられないライン
7mスローライン	ゴールラインから7mの距離に引かれたラインで7mスローを行うプレーヤーが越えられないライン
ゴールキーパーライン	ゴールラインから4mの距離に引かれたラインでペナルティスローのときにゴールキーパーが越えられないライン
ゴールエリア	ゴールエリアラインで区画された、ゴールキーパーだけが入ることが許される地域
交代地域	センターラインからそれぞれ4.5mずつの地域で、競技場への出入場が許された地域

サーフェスの材質

- 競技規則では特に規定はないが、一方のチームが有利になるように、コートの特性を変えてはならない。
- 本来インドネシアの競技で、木材の床、ゴム系舗装等が使用されているが、屋外(国体のときは一部屋内も使用)ではクレイ舗装等がある。
- ※競技規則に記載は無い。

附属品

ゴール

- 各アウターゴールラインの中央にゴールを設置する。床又はゴール後方の壁面に、ゴールをしっかりと固定しなければならない。ゴールは内りのりで高さ2m、幅3mである。ゴールの枠は長方形でなければならない。内りのりで対角線の長さが360.5mとなることを意味する。(360cm以上361cm以下で、1つのゴールにおいて0.5cm以内でなければならない。)
- ゴールポストの後面はゴールライン(およびアウターゴールライン)の後端に一致し、したがってゴールポストの前面はアウターゴールラインより3cm前に位置することになる。
- ゴールポストおよび、これを連結するクロスバーは、同質の素材(木材、軽金属、合成物質など)で作られ、その断面は角を半径4±1mmの円で丸めた1辺8cmの正方形である。また、コートから見えるゴールポストとクロスバーの3面を、対照的な2色で帯状に塗り、背景からも目立つようにしなければならない。同じコート上の2つのゴールは同色でなければならない。

ハンドボールコート1面 44.0m×22.0m=968㎡